

ショートコメント vol.63 (2017年2月6日)

テーマ：マイナス金利導入後の個人預金の推移

～大阪の個人預金は前年比でプラスを回復も、楽観視は許されず～

● 昨年のショートコメント

昨年のショートコメント (vol. 51、55) で、マイナス金利導入後の預金動向の変化について、次のような指摘を行った。

マイナス金利の導入をきっかけに預金残高の増勢が強まっているものの、全体を押し上げているのは、主に金融機関による預金であり、個人預金の増加幅は縮小していること。特に、大阪の個人預金は前年比でマイナスに陥っている——という内容である。

これらは短期的な動きにとどまらず、その後も半年以上にわたって続いてきたが、ここへきて個人預金のトレンドに変化がみられる。

● 金融機関や企業による預金は増加

まず、預金残高全体の動きをみると、前年比で増加率は拡大が続いている(図表1)。直近の12月は全国で8.1%増と大きく伸びており、2月のマイナス金利導入以降、一貫して増加傾向が続いている様子が分かる。

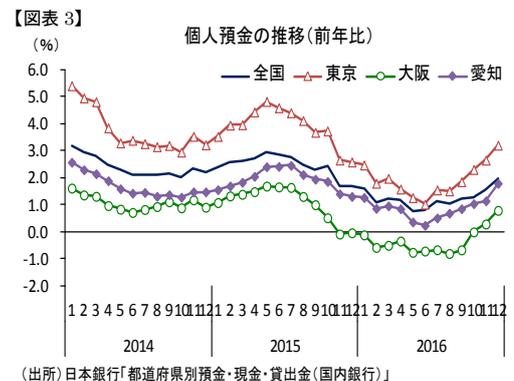
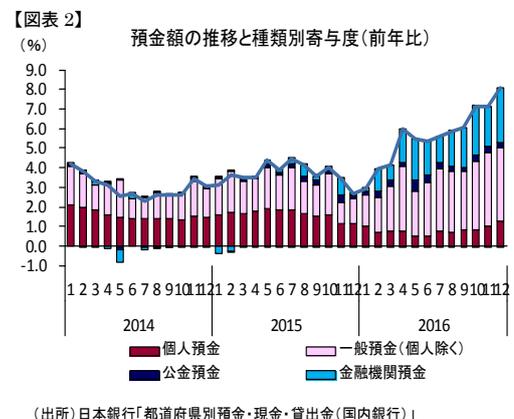
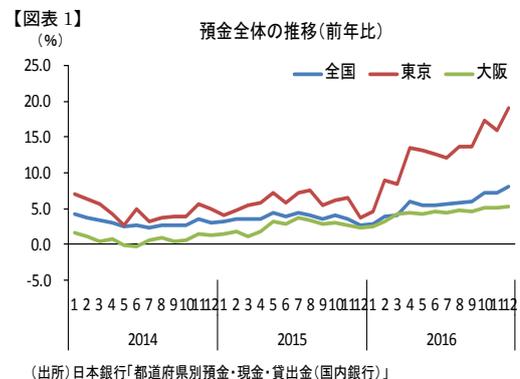
この動きについて、預金種類別の寄与度をみると、こちらも特徴的な動きが続いている。全体の増勢を支えているのは、主に「金融機関による預金」と「(個人預金を除く)一般預金」であり、この両者によって預金残高の増加の大半が説明できる(図表2)。

● 大阪の個人預金の行方

その一方、増加率の縮小が続いていた個人預金については、先に述べたように、トレンドの変化がみられる。

まだ過去の水準までは戻っていないものの、ここ数か月は増加率が拡大している(図表3)。タイミングからすると、ほぼ前年の反動とみられる動きであり、マイナスとなっていた大阪も、昨年10月以降はプラスに転じた。反動増という部分に着目すると、今後も増勢の拡大が続く可能性が高いとみられる。

ただし、全国的にはその見方が当てはまるとしても、大阪に関しては必ずしも楽観視できない。というのも、



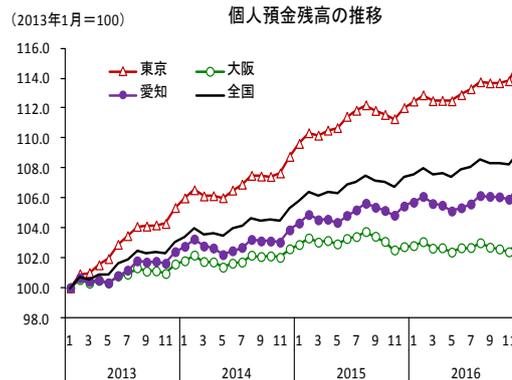
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

預金を金額ベースで見ると、2015年の秋頃をピークに、それまでの増加傾向から横ばいの動きに変化しているからである（図表4、5）。

やはり、マイナス金利導入以降、預金が増えにくくなっていることは否めないほか、高齢化の進行や、賃金の伸びの鈍さなども、預金の増加の足を引っ張っているとみられる。

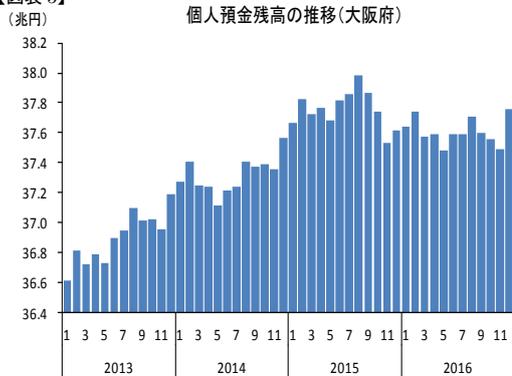
今後も、月によっては前年割れとなることもあり得ることから、残高の推移を含め、引き続き注意が必要と考えられる。

【図表4】



(出所) 日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金(国内銀行)」
※3か月移動平均

【図表5】



(出所) 日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金(国内銀行)」
※3か月移動平均

本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。